

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数の落ち込みはみられず、好調に推移している。生活用品の多くで値上げが進んでいるものの、旅行客の財布のひもは若干緩めとなっている。ただし、客単価はそれほど上向いていない。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・地域一体となった人気アニメのイベントが4月末から始まったことで、ゴールデンウィーク後も来客数が落ち込むことなく、好調を維持している。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・韓国からの団体客を中心にインバウンドが増加していることから、景気は良くなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の夏は、前年のような猛暑ではないことから、来客数が好調に推移している。観光客も多くみられ、順調な7月だった。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・富裕層やインバウンドによる購買が、3か月前よりも好調であった。一方、購買の中心となる国内客については、値上げの影響に加え、当地の気温が前年ほど高くないこともあって、季節商材が低調に推移した。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価高の影響はあるものの、来客数と売上に伸びがみられ始めている。周りで様々なイベントが開催されていることもあって、地元客の購買意欲は高まっている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車2車種の発売効果により、受注が好調に推移している。前年末に発売した車種についても、来客数の増加に伴って、関心が高まっており、販売量が増加している。
	○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響による価格上昇に落ち着きがみられるようになったことで、国内外を問わず、夏休みに向けた予約が少しずつ増えている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏季の観光繁忙期のスタートとなる6月の航空利用者は、国内客もインバウンドもほぼ前年並みで推移した。ただし、中東情勢を要因とした物価上昇の影響が、月を追うごとに強まっていることもうかがえる。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシー運賃値上げの効果が始めている。ただし、夜の酔客が減少していること、乗降客数が前年を下回っていることが不安材料となっている。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・店舗の来客数や各種相談件数が安定的に推移しており、料金プランの見直しや固定通信サービスに関する提案機会も継続している。都市部を中心に、通信サービスへの関心は底堅いことがうかがえる。一方、物価上昇の影響から、契約内容や支出額を慎重に検討する客が多く、価格や特典を十分に確認した上で判断する傾向がみられる。全体としては、需要が安定していることから、景況感はやや改善している。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・商品単価が上昇しているなか、買上点数が減少傾向にある。先行きの見通しが不透明なことから、客の購買意欲が上向いておらず、売上は伸び悩んでいる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・休日の観光客の姿が多少目立つようになってきたものの、平日の来客数は相変わらず少ない。各種イベントが開催されていることで、周辺ではまずまずの集客となっているものの、店舗の来客数にはつながっていない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・売上は一定の水準を維持できているものの、伸びがみられるような状況とはなっていない。
	□	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・来客数は減っていないものの、購入意欲のある客が少なくなっている。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・客の様子から、家計をやりくりして、どうにか暮らしている状況がうかがえる。そのため、景気は3か月前と全く変わっていない。

☐	スーパー（店長）	お客様の様子	・気温がやや低いこともあって、夏物衣料や日用品の動きが悪い。このままでは、在庫を抱えたまま、8月を迎えることになるため、利益が圧迫されることになる。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年と比べて、気温が余り高くないことから、飲料やアイスなどの夏物商材の動きが悪い。ただし、来客数は前月とほとんど変わっていない。
☐	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・前月以降、天候不良による不漁が続いていることで、大きな影響が生じている。インバウンドは増えてきているものの、全体的に人の動きが少ない状況となっている。
☐	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・依然として、客の節約志向が強い。ただし、節約疲れもあって、以前ほど価格一辺倒ではなくなっている。全体の購入額はそれほど変わっていないものの、気に入った商品があれば、購入する動きがみられるようになっている。
☐	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・大型イベントの開催により、集客は好調であったものの、販売にはなかなかつながらない。先行きが不透明なことから、客の購入意欲が上向いてこない状況にある。
☐	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・前年ほど気温が高くなく、過ごしやすい天候となっていることから、季節商材に動きがみられない。また、全国的な猛暑が連日報道されていることで、客足が伸びてこない状況にある。
☐	スナック（経営者）	来客数の動き	・夏を迎え、景気が良くなることを期待していたものの、ほとんど変わらない状況にある。
☐	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数は引き続き減少傾向となっている。海外旅行需要はやや回復しているものの、国内旅行需要が減少しており、減少幅は3か月前と変わっていない。
☐	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・市場環境や顧客動向に大きな変化はなく、全体として安定した実績を維持できている。大きく上向く要因や下振れする懸念材料もみられず、前年並みの水準で推移していることから、景気は横ばいとなっている。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・7月に稼働したタクシー1台当たりの売上は、前年並みであった。ただし、前年12月に運賃を値上げしたことを踏まえると、前年よりも利用客が若干減っている。一方、乗務員の採用に注力した効果で、前年よりもドライバーがやや増えていることから、会社の売上は前年比プラス5%ほどであった。
☐	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の人出が増えてきたことから、景気は横ばいで推移している。飲食店なども久々に好調であったとみられる。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・電話やアプリによる利用客が減少している。一方、観光客の利用状況には変化がみられなかった。
☐	観光名所（従業員）	来客数の動き	・7月は天候の悪い日が多かったことから、来客数が伸び悩んでいる。ただし、合間にあった天候の良い日に、多数の来客数がみられたことから、全体的には例年と変わらない来客数となった。
☐	美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が以前よりも短くなっている。ただし、年金生活者の来店周期は以前よりも長くなっており、世代による差がみられるようになっている。
☐	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光が最盛期を迎えるなか、ツアー客が減少する一方で、個人客が増加している。ただし、全体的にみると、前年並みの輸送状況となっており、横ばいの状況が続いている。
☐	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅着工数は引き続き低迷している。材料などの原価が低下する要素も見当たらない。このため、景気はやや悪いまま変わらない。
☐	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築単価の高止まり、金利の上昇により、客の購入意欲が引き続き低下している。
☒	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・6月以降、来客数が減少している。客の来店頻度が低下していることから、物価高に対する防衛意識が強まっていることがうかがえる。競合他社も同ような状況であることから、消費の潮目が変わりつつある。

▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の動きをみると、郊外の店舗は前年並みの来客数を維持しているものの、都心部の店舗は苦戦している。都心部では競合店が多いことから、客が安価な特売品を目当てに、店を使い分けている状況がうかがえる。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・土用の丑の日におけるウナギのかば焼きについて、例年は国産の商品を中心に売れる傾向があるものの、今年は価格の安い中国産がよく売れた。客の節約志向が強まっていることがうかがえる。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価や人件費が上昇していることから、景気はやや悪い。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・値上げを要因とした来客数、買上点数の減少傾向は変わっていない。さらに、7月は、前年と比べて気温が3度ほど低いこともあって、アイス、飲料などの売上も減少している。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年よりも気温が低いこともあって、7月に入ってから、アイス、飲料などの夏型商材の購入客が減少している。来客数は前年を大きく下回っており、前月と比較しても伸びていない状況にある。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	単価の動き	・物価高の影響が強くなっている。ファッション性の高い商品は、どれだけ安くても、必要ではない商品は売れなくなっている。一方、肌着や寝具などの実用性の高い商品は、気温の変化などを踏まえて、必要なかどうかを慎重に判断した上で、購入している。
▲	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・全体的に来客数が減っている。また、即決案件も少なくなっている。低金利施策が終了したことから、販売を後押しする材料に乏しく、計画を達成できるか際どい状況となっている。他店でも同様の傾向がみられることから、景気はやや落ち込んでいる。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・中東情勢の影響は薄れつつあるものの、前年ほど気温が高くないことから、3か月前と比べると、売上の前年比が低下している。
▲	その他専門店「造花」（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響がみられるようになってから、安定した価格で商品を用意できるのかという問合せが増えている。仕入れ状況が安定し、価格が落ち着くまで、客の様子見が続くことになる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・7月の売上が前年を下回りそうなことから、景気はやや悪い。前年ほど気温が高くなく、猛暑日もなかったことから、来客数の増加を期待していたものの、想定以上に苦戦した。人気ホテルの飲食店を訪れたところ、以前は予約の取りにくかった高級和食店が閑散としている一方で、洋食のランチビュッフェ店は開店前から行列ができており、客の利用状況が様変わりしていた。また、洋食や中華の食材展示会では、以前のような高級食材の展示ばかりではなく、下処理を施した食材や工程の機械化など人手不足に対応するための展示が大幅に増えていた。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・以前は、週末や連休前になると、来店予約が埋まり、調整に苦労する状況であったものの、ここ数月は明らかに来店予約の件数が減少している。平日の昼間に加え、これまで比較的堅調だった夜間の時間帯も空が目立つようになっていく。天候要因や季節要因、イベントなどの影響による一時的な動きでは説明できない落ち込み幅であることから、先行きの見通しが不透明な状況を受けて、今は余計な支出を控えようという客の心理が強まっていることがうかがえる。
▲	美容室（経営者）	それ以外	・前月と比べると、多少は良くなっているものの、景気は相変わらず厳しい状況にある。天候の影響もあって、8月の予定を早めて来店した客が多かったとみられる。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の様子をみると、意思決定こそ早いものの、購入予算が減少している。物価高騰による先行き不安の高まり、金利の上昇が理由として考えられる。

	×	衣料品専門店 (店長)	競争相手の様子	・前月に引き続き苦戦している。また、7月に入ってから、競合店の責任者が相次いで来店し、弱音を吐いている。スーツ需要が低下しているなか、食料品の値上げが続いていることで、値上げを行いたくてもなかなかできない環境となっており、競合も含めて、非常に苦しい状況となっている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・7月の販売量は前年比プラス22%であった。3か月前の4月の販売量は前年比マイナス11%だったことから、景気は良くなっている。
	○	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・6月末頃から全体的な動きがやや良くなり、販売量が増えている。こうした動きが7月も継続している。国際線エリアでは、円安の影響により、食品以外の商材の購買率が上向いているものの、前月と比べれば、販売状況が改善している。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・遅れ気味だった入札案件の実施が続いたことから、受注量が増えた。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・7月は安定した天候が続いたことから、各現場では計画を上回るペースで工事が進捗している。真夏日を観測した日もみられたものの、早い段階から熱中症対策を講じたことで、工事への影響は限定的となっている。また、大型公共施設の建て替え工事の受注が決まったこともプラスである。受注、施工共に、順調なことから、業況は好調に推移している。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず乳製品の保管が堅調に推移している。トレーラー輸送では、地域の紙パルプ生産が好調なことから、製品、原料共に、輸送量が増えている。農産物関連は、新物の収穫を前にして在庫品の輸送量が増えている。飲料容器や木材製品の輸送も順調であり、全体的に本州との間の輸送が活発になっている。
	○	通信業（営業担当）	取引先の様子	・半導体産業やG X関連の動きが活発になっていることから、地域経済が好循環しつつある。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・賃上げを実施した企業の割合が増加している。ただし、ベースアップの継続は限界が近いとして、ボーナスで調整するという企業の声もみられるようになっている。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・住宅新築を含めて、不動産登記業務の売上が増加しているほか、相続関連業務の売上も増加している。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・人手不足問題、資材価格の高騰などの懸念材料はあるものの、国内の総建設投資は引き続き堅調に推移している。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・お盆前の受注で一時的に受注量が増えているものの、毎年の動きであることから、景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・業務の相談はあるものの、作業する技術員不足のため、見送る案件が増えている。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・受注量について、3か月前とそれほど変化はみられない。ただし、今後に向けた問合せが増えており、これから景気が上向くことを期待している。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の業績は比較的好調であるものの、セキュリティ関連への投資や社員への還元を予定していることが多く、当社の業績に直結するような投資は当面見込めない。また、社員への還元が進みつつあるものの、物価の上昇には追いついていない状況にある。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・数か月前時点の見込みと比べると、販売量は伸びている。ただし、特定案件による部分が大きく、一般消耗品などの動きは前年を下回っている。
	▲	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・本州が猛暑に見舞われていることから、青果物の作柄が良くない。価格も徐々に上がっていることから、販売の動きに勢いが感じられない。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・人口の減少を背景に、新築住宅の着工棟数が減少傾向にあることから、景気はやや悪い。今後も同様の傾向が続くとみられる。

	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響により、ナフサなどの価格が高騰していることで、塗装業者の倒産がみられたほか、発注者への追加料金が発生している。また、建築資材の価格が不安定なことで、新築物件の受注が大幅に減少している。こうした動きは、当事務所の売上にも大きく影響することになるため、景気が良くなるとは考えにくい状況にある。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規案件の話が出てこないことから、景気はやや悪くなっている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・選考ハードルは高いものの、求人企業の採用意欲が活発化している。今まで人材サービスを利用したことのない企業からの依頼も増えている。採用には、費用が掛かるという意識も醸成されつつある。これらのことから、景気はやや良くなっている。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材業界において、7月は需要の落ち込む時期であるものの、求人数は前年と変わらない水準にある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・正社員求人数の減少が止まらない。特に建設業、運輸業の求人数が減っている。希望していたような人材が集まらない、応募者が少ないなどの理由で採用を手控える企業が増えている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・夏休みに入り、道外からの観光客の増加や全国大会の開催により、観光関連が堅調に推移している。一方、地元住民の節約志向が強いことから、住宅関連や自動車関連などの需要は落ち込んでいる。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・前年と比べると、新規求職者数が若干の減少となっている。また、求職申込みのタイミングについて、これまでは離職後が多かったものの、最近是在職中の割合が増加している。物価の高騰や景気の不安定さから、離職後にゆっくり仕事を探すのではなく、在職中に仕事を探してすぐに転職するという考えが増えていることがうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・人手不足感の強い産業もあることから、企業が採用を抑制するような顕著な動きはみられない。一方、中東情勢の影響については、引き続き注視していくことが必要である。現時点では、景気動向を判断しづらい状況にある。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の月間有効求人倍率は0.71倍であった。前年を0.07ポイント下回り、11か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年を下回って推移している。ただし、減少幅は月によって上下しており、求人数の減少が景気の悪化によるものとはいえない状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず、企業の求人意欲がやや低下している。物価高や中東情勢の影響を要因とした先行き不安から、特に正社員求人について、慎重な企業が多い。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・建設コストや燃料価格の上昇に加え、観光関連産業の需要回復に落ち着きがみられることから、一部の企業で採用計画を縮小する動きがみられる。3か月前と比べて、採用者数がやや減少していることから、景気は緩やかに悪化している。
	×	*	*	*